



Title	＜書評＞「幸福な人生」（産婦人科医 松本文絵著，講談社，1400円）
Author(s)	山根，聡子
Citation	大阪公衆衛生. 1994, 66, p. 19-19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83802
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『幸福な人生』

産婦人科医 松本文絵著

講談社 1400円

26才、未婚、妊娠出産経験なし。これが私のプロフィールである。

小学校6年生の頃に女の子だけが体育館に集められて、スライドだか、ビデオだか、よく覚えてないようなものを見せられた。訳のよくわからないものだった後でパンフレットをもらった。生理用品のおまけもついてた。

読んでも、見ても、さわっても、よくわからなかった。しかし、親に見せるのはまずいというのは、なんとなくわかった。

中学校では、保健の授業で教科書を読まさせられた。先生の説明はなかった。高校では男の先生が、恥ずかしそうに説明するので、恥ずかしいものか？と思った。こんな風な性教育を、私は受けてきた。

大学生になった時、本屋でこの本を見つけた。今更の感も強かったが、読みだすと結構おもしろいので、買ってしまった。もう5年も前のことである。

性教育…こう書くとなんか非常に面倒くさいものに思う。しかし、人生80年の時代だからこそ、何十年もついてまわる性について知っておかないといけないのではないか。

この本は、子どもが読んでも良いし、お母さんが読んでも良い。しかし、私はあえて言いたい。「お父さん達、読みなさい。そして少しは女房に愛想つかされる率がさがる」と。

性について語り、考えることは、その人の生きざまについて語り、考えることだと思う。

一度パラパラと読んでみて、人生について、ゆっくり考えてみるのも悪くないものでは？

(東大阪市健康づくり推進室 山根聡子)